【普通科・商業科・事務情報科】 1年次 【必修・選択】科目「書道Ⅰ」授業のシラバス

1 概要

教科名	芸術科	科目名	書道Ⅰ	単位数(コマ数)	2(78)
科目の目標	書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。				
教科書(出版社)	新編 書道Ⅰ (教育出版)	副教材(出版社)			

2 学習の方法

(1) 予習について

基本的に必要ありませんが、創作の作品を制作する際に、あらかじめ素材(詩や俳句、歌詞など)を準備するように指示することがあります。

(2) 授業について

筆や墨、紙など、作品制作に必要な道具は、すべて書道教室に置いておくことを認めます。筆記用具を忘れずに持参してください。服装については通常は制服着用で行います。ただし、夏季略装期間においてはジャージの上を着用することを認めます。

授業では基本的に毎時間、作品制作を行います。作品制作は、大きく臨書と創作に分類されます。臨書とは、一般に評価の定まった古典を習うことを言います。創作とは自分で題材を選び、用具や用材、全体構成を工夫して、作品制作することを言います。また作品制作の前後に鑑賞を行います。

(3) 復習について

特に必要ありません。授業の最初に前の時間に学習した内容を復習します。

〈学習アドバイス〉

中学校の「国語科書写」では、文字を正しく整えて速く書くことをとおして、社会生活に生かすことを学習してきました。高等学校の「芸術科書道」では、これをふまえて古典の学習をおして、いろいろな美しさを味わい、筆、墨、紙などの用具・用材の特性を生かしながら創造的な自己表現を求めています。

書の表現は多様です。まずは、古典のよさや美しさを味わい、臨書によって技法や表現原理を学びましょう。そして、自分が表現しようとする制作の意図に応じて、用具・用材や運筆を工夫し、書をおして自己表現しましょう。

3 評価について

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
① 書への関心・意欲・態度	・さまざまな書の美に関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の創造的学習に取り組もうとしている。
② 書表現の構成と工夫	・古典の特徴を捉え、習得した技法を自身の表現活動に生かしている。 ・感性を働かせながら、自らの意図に応じて構想し、表現を工夫している。
③ 創造的な書表現の技能	・目的や用途に応じた書表現をするために、効果的な書表現の技能を身につけている。
④ 鑑賞の能力	・自身や他者の作品を客観的に観察し、その特質を的確にとらえ、自己の創作活動に生かすことができる。

(2) 評価の方法(以下観点①～④は「(1) 評価の観点」と対応する)

観 点	評価材料				
	割合	作品制作への取り組み	授業で制作した作品	授業プリント	グループワーク
① 書への関心・意欲・態度	20%	◎		◎	○
② 書表現の構想と工夫	40%		◎	○	○
③ 創造的な書表現の技能	30%		◎	○	○
④ 鑑賞の能力	10%	◎		◎	○

〈担当者からのメッセージ〉

定期考査は実施しません。授業での取り組み、提出された作品をもとに評価します。

作品制作が中心の授業になりますので、積極的に取り組むことが大切です。古典の臨書は、練習を重ねれば重ねるほど上達します。創作では、用具・用材、全体の構成を工夫することで様々な表現効果をもたらします。自分で題材を選び、作品のイメージを考え、表現を工夫してよりよい作品を探究しましょう。そして「自分にしか書けない作品」を目指しましょう。また、書の奥深い魅力を味わい、自己の表現の幅を広げるためには、鑑賞力を培うことが大切です。古典や中間の作品の鑑賞をおして、幅広い表現を味わい、自己の作品制作に生かしましょう。

授業で制作した作品や授業で使ったプリントはファイルに挟めて保管しますので、しっかり管理してください。また、作品鑑賞する際にはグループワークを行うことがあります。仲間の作品のよいところを見つけ、自分の作品制作に生かしましょう。

【普通科・商業科・事務情報科】 1年次 【必修・選択】科目「書道Ⅰ」授業のシラバス

4 授業計画

月	単元	時数	学習内容	観点別評価	到達目標	考查等
前期 4	1)オリエンテーション (2)用具・執筆・用筆法 (3)楷書の学習1	1 1 10	○楷書の基本 ・九成宮醜泉銘 ・孔子廟堂碑。 ○軽快と重厚 ・雁塔聖教序 ・顔氏家廟碑。	①	・中学校での書写との違いを理解し、古典の美に触れて字形の構成や線質について意欲的に学ぶことができた。	<ul style="list-style-type: none"> ・考查は実施しない ・毎時、プリントの提出あり
5				②	・楷書に必要な筆法を身につけることができた。	
6				③	・楷書の構築的な構造や変化と統一などを理解し、字形の構成や全体の構成を工夫することができた。	
7	(4)作品制作（学校祭展示用）	7	・創作の基本として用筆や構成を学ぶ。	①	・創作について関心を持ち、積極的に取り組むことができた。	
8				③	・筆法を習得し、自身の表現を紙面に表すことができた。	
9				④	・他者の作品を鑑賞し、自身の作品との違いに気づくことができた。	
8	(5)楷書の学習2	11	○方勢と円勢 ・牛嶽造像記と鄭羲下碑の臨書をする。	①	・古典の美に触れて字形の構成や線質について意欲的に学ぶことができた。	
9				②	・楷書に必要な筆法を身につけることができた。	
10				③	・楷書の構築的な構造や変化と統一などを理解し、字形の構成や全体の構成を工夫することができた。	
11				④	・楷書の基本的な点画や線質の表し方と用筆・運筆の関係を理解し、創造的な表現を身につけることができた。	
後期 10	(7)篆刻の学習	14	○篆書の特徴 ・甲骨文字 ・泰山刻石	①	・身の回りの篆書に興味を持ち、意欲的に取り組んでいる。	
11				②	・篆書の古典の持つ伝統的な字形の美を感受するとともに、筆法を習得することができた。	
12				③	・篆刻の技法を学び、自らの意図に基づいて表現を構想している。	
1	(8)行書の学習	12	○篆刻について ・篆刻の用具・用材と手順	③	・篆刻の技法を学び、自らの意図に基づいて表現を構想し工夫することができた。	
2				①	・自らの感性や意図に基づいて、字形の構成や全体の構成を工夫することができた。	
3				②	・行書の変化と統一などを理解し、字形の構成や全体の構成を工夫することができた。	
4				③	・行書の基本的な点画や線質の表し方と用筆・運筆の関係を理解し、創造的な表現を身につけ、表すことができた。	
1	(9) 仮名の書の学習	12	・基本的な筆使い ・平仮名 ・変体仮名 ・連綿 ・古筆の鑑賞と臨書 ・仮名の創作	①	・仮名の成立や用具・用材に関する基本的な知識や扱い方に関心を持ち、理解することができた。	
2				②	・単体や連綿、全体の構成など、日本の伝統的な書の美を感受し、表現を工夫することができた。	
3				③	・仮名の基本的な線質と用筆、運筆との関係を理解し、表現することができた。	
4				④	・他者の作品を鑑賞し、自身の作品との違いに気づくことができた。	
1	(10)漢字仮名交じりの書の学習	10	・漢字と仮名の調和 ・字形の変形 ・漢字仮名交じりの筆法 ・作品制作	①	・漢字仮名交じりの書の表現に関心を持ち、意欲的に取り組むことができた。	
2				②	・効果的に表現するため、文字の大きさや配置、行の長さや行間を工夫することができた。	
3				③	・文字や文字群と余白との関係を理解し、全体の構成を考えた表現の技能を身につけることができた。	
		計 78				

※ 観点別評価①は書への関心・意欲・態度、②は書表現の構想と工夫③は、創造的な書表現の技能、④は鑑賞の能力を表しています。

※ 授業計画は進度により前後することがあります。